

薬師寺東塔 縁の瓦

3学期の始業式で、和田校長先生から【薬師寺東塔 縁（えにし）の瓦】のお話がありました。



西部中学校が開校した昭和25年（1950年）、戦後のまだ人々の生活も苦しい時代、奈良県から「国宝保存学徒募金」の依頼が長野県にありました。当時奈良県の寺社間では、長野県内の修学旅行生徒の見事な見学態度と事前学習の深さに対して高い評価があり、「最初に長野県の生徒の皆さんにお願いしよう」と、全国に先駆けて募金の依頼があったのです。県内の小・中・高校には「県名産のりんご一個に値するお金を」と呼びかけ、およそ70万円（現在の約2,000万円）の募金が集まったそうです。奈良県では、法隆寺、薬師寺、東大寺を含む15古社寺の保存修復が行われました。その際、『募金をしてくれた長野県の生徒の思いに対し、感謝の気持ちを忘れないために、瓦に校名を刻んで残そう』ということになりました。

月日の流れとともに忘れ去られていましたが、平成21年（2009年）から、110年ぶりに国宝薬師寺 三重塔（東塔）の解体修理が行われています。この解体修理に伴って寄進銘瓦（名が入ったものは4815枚。その内県内小・中・高校の校名が刻まれた屋根瓦）359枚が発見され、その内不再用瓦125枚は、該当校へ里帰りすることになり「縁（えにし）の瓦」と命名されました。玄関にある瓦はその中の1枚で、“長野県上水内郡 小田切中学校”と校名が刻まれています。平成10年に閉校した小田切中学校（現在、地区の生徒は裾花中と西部中に通っています）の先輩方が、国宝に対して寄せた多くの想いが、この瓦には詰まっています。



概略は以上ようになりますが、時空を超えた過去とのつながりにロマンを感じます。縁の瓦の実物は、玄関ホールのガラスケース内に展示してあります。2月の参観日の折に、是非ご覧ください。（3年生は、昨年の修学旅行で薬師寺東塔を直に見学し、2年生も今年の修学旅行で見学する予定です）

第69期校友会 いよいよ始動!



校内では、第69期校友会の活動が本格的に始まりました。玄関でのあいさつ、給食身支度チェック等の当番活動だけでなく、インフルエンザ拡大防止のため、“換気”を呼びかける校内放送などの取り組みもみられます。全校生徒が楽しく過ごしやすい学校生活を送れるよう、「気付き・考え・実行」していく姿が校内に活力を与えています。これからの活動にも期待が膨らみます。

3学期が始まった。3学期は、2年生のまとめや3年生に向けてのこと、校友会を引き継いで始動など、やること多くあると思う。でも、私は見通しを持って計画的に行動することが苦手。まず、3学期は苦手を克服して、計画的にやることをできるようにしたい。

特に、校友会では先輩が卒業する前に色々なことを教えてもらったり、自分たちで新しく始める活動は具体的に詳しく計画して、大きな問題がなく企画ができるように計画的にがんばりたい。3学期は、まとめと始動の学期なので、どちらもできるように、見通しを持って計画的にやることをやりたい。（2年女子）

学校自己評価アンケートから

昨年末にお願いしました「より良い学校をめざし、連携と協力を生み出すために～学校評価～」にご協力いただき、ありがとうございました。結果がまとまりましたので、要点的にお知らせいたします。尚、ご記入いただきました記述回答の内容をしっかりと受け止め、学校生活・教育環境の改善にいかしていきたいと思います。

学校生活の基本について 「学校生活が楽しい」と感じている生徒及び保護者の割合は、70%を越えており、総合的な学習や行事の内容からも充実感を得ていることが分かりました。それぞれの活動が、単発で終わることなく、関連して継続的に行い、生徒の力となるよう努めていきたいとします。評価の低かった「マナー・ルールを守る態度」については、その場での指導や校友会からの呼びかけを大切に、家庭と連絡を密にしながら、改善策を講じていく必要があります。

安全・安心な教育環境について 一昨年度から始めた不応・不登校対応への取り組みの結果、多くの生徒が登校できるようになりました。保護者の皆様や外部機関の協力をいただきながら進めてきた成果であると思います。また、生徒の「相談に乗ってくれる」が80%を超え、昨年度より高評価でした。反面、「相談事への適切な対応」については、多くの保護者の方は不安を感じていらっしゃる分かりました。来校しやすく相談しやすい雰囲気づくりを大切にすると共に、多くの職員で生徒と向き合い声をかけ情報を共有し合う生徒指導を更に丁寧に続けていく必要があります。

家庭・地域との連携について 「地域コミュニティスクールの推進」「わかりやすい情報発信」について、好評価をいただきました。地域公開講座やPTAバザー、地域奉仕清掃などで生徒の姿を通して家庭・地域との関わりを強く実感できているからではないでしょうか。更により良い活動になるよう保護者・地域の方々の声をいただきながら、活動の質を高めていきたいと考えています。

学力向上への取り組みについて 「よく分かるように教えてくれる」「やってみたい授業をしてくれる」は、80%以上の生徒が好意的に受け止めています。生徒の側に立った授業づくりをこれからも継続していきたいとします。反面、「家庭学習の充実」については、厳しい評価をいただきました。教科毎に学力向上への取り組み、家庭学習の内容や方法を見直し、生徒が「できた」「わかった」と実感できる学びが実現・継続できるよう授業改善や教材研究を重ねていく必要があります。

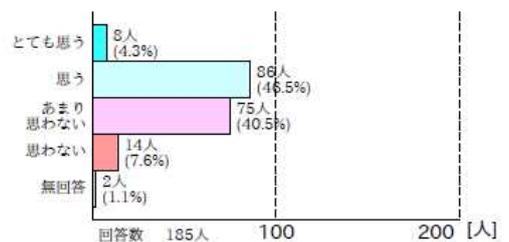
【まとめ】

今年度の重点③④「学校生活の充実」「所属感の持てる学校」及び重点⑤「地域コミュニティスクールの推進」については、成果を上げていると思われます。それぞれの活動が単発で終わらずに関連して継続的に、また、更なる質の向上がこれからも求められると思われます。

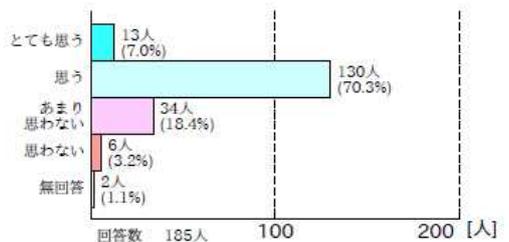
反面、重点①「学力向上に向けた取組」「家庭学習」については、課題が見えてきました。生徒が自信をもって学校生活を送るためにも「わかる・できるを味わえる授業づくり」「友と学ぶ集団づくり」「個に応じた指導の充実」をキーワードに各教科で内容改善に努めていかなければなりません。

次年度、一層、保護者・地域の皆様と学校が一丸となって課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。何かございましたら、いつでも学校にご連絡ください。今後とも、よろしくお願いいたします。

重点① 学力向上の取り組み



重点③ 学校生活の充実



★長野市教育委員会より発行される詳細な報告書も合わせてご覧ください。